

カラコルム  
ヒンドウ・クシュ  
遠征史

(含む ナンガパルバット)

S. I. M. A. C.

THE REPORTER  
IN OCTOBER,  
1964

M. O G A W A

例

- ① 国名, パーティ名
- ② 番号名(生年)
- ③ 山名(標高—m) または探検地域名
- ④ 登頂月日, 登頂者名, または最高到達地
- ⑤ 記録文献
- ⑥ 遭難その他

1812年

- ② サイイド・ミール・イゼット・ウラー 他
- ③ アトックリ (インダス川下流) → ハザラ → カシミール →  
ゾーヅラ (3529 m) → レー → ディガール →  
シオーク河上流 → カラコルム峠 (5574 m) →  
ヤルカントへと探検旅行する。

1814年～16年

ネパール戦争。ネパールの鎖国。クマウンの開放。

1823年

ジョージ・エベレストは大三角測量部部長となる。(—43年)

1830年

- ② アレキサンダー・ガードナー
- ③ スリナガール → ブルジル峠 (4198 m) → キルギットの  
旅行をする。

1834～5年

- ② ジェームズ・ハンダーソン
- ③ パララチャラ → レー → スカルト → アランピラ → アス  
トール河 → ブルジル峠 → スリナガールを旅行。

1835～38年

- ② G.T. ヴィーヌ
- ③ チョゴルンマ氷河末端に致る。  
カーポル → サルト口深谷に致る。

1841年

G. エベレスト。子午線弧 (エベレスト積円体) の算定完成。  
これにより三角測量の基準ができた。

1845年

第一次シーク戦争。

1848年

パンジャブ地方の併合。

1855年

- ② シュラギントワイト兄弟 (アドルフ・ヘルマン・ロベリト) ②
- ③ 旧ムヌターグ峠 (5420 m) を越える。

1857年

アルパイン・クラブ設立

T.G.モントゴメリー、G.シェルヴァートン等K1からK32  
まび測量

1861年

②ゴドウィン・オースティン( )

③・チヨゴ・ルンマ氷河、ワロルンマ氷河、ピアフオ氷河、ハン  
マー氷河、バルトロ氷河の探査及び作図。  
・ヌシク・ラハ登リヒスパー氷河を発見。

1865年

E.ウインパー、マッターホルン(4506m)に登頂。

1887年

②フランシス・ヤング・ハズバンド(1863-1942)

③ムスターグ峠越え→バルトロ氷河→バルティスタン地方  
への旅行。

⑤The Heart of a Continent (ヤング・ハズバンド)

1889年

②F.ヤング・ハズバンド

③・ウルドゥク氷河→インディアラパス(6360m)

・アギール峠越え→シャクスカム川

・スカムリ氷河探検

・ガムシャール氷河の発見。

⑤The Heart of a Continent

キルギット・エージェンシー(駐在官署)の設立。

1891年

フンガ=ナギール戦役

1892年(~3年)

②G.コッカール

③西部カラコルム、東部ヒンズークシュ探検、測量。

③

1892年

- ② マーティン・コンウェイ (1856~1937) O. E. ヴンシュタイン, C. G. ブルース 小佐 (1866~1939) A. D. マコーミック (画家) J. H. ルードブッシュ, R. デイキン 大佐, M. ツールブリックゲン (ガイド)

- ③ ゴルジル峠 → キルギット → ナギール → バルディート  
・ バクロート溪谷 (ラカポシ南東面)  
・ サマイヤル, バルポー溪谷 (ラカポシ北面) } 探検  
・ ヒスパー氷河, ビアフォ氷河探検, 地図作成  
・ ヌシワラ越え → ケロルンマ氷河 → アランドゥ  
・ ゴドウィン・オースティン氷河の発見命名  
・ ヴィーヌ氷河の発見命名  
・ リリスタルピーク (約5910m) 登頂  
・ バルトロ・カンリ (ゴールテン・スローン) 試登  
・ パイオニアピーク (バルトロ・カンリ II 峰, 6890m) 登頂

④ 8月25日

コンウェイ, ブルース, ツールブリックゲン, グルガ兵2名

- ⑤ Climbing and Exploration in the Karakoram Himalaya (M. Conway)

1895年

- ② A. F. マンメリー (1855-1895) G. ヘイスティングス, J. ノーマン・コリー 博士, C. G. ブルース

③ ナンガ・パールバット (8125m) の試登

④ デイライミライ氷河に6000m位まで 8月18日頃

⑤ マメリー, グルガ兵2名と行方不明になる。

- ⑥ Climbing on the Himalaya and other Mountain Ranges (N. Collie)

1896年

② アーサー・ニーク (宣教師)

③ パナミックピーク (6273m) 登頂

1898年

② ワークマン夫妻 (ハンター及びバロック, 米人)

③ イダーワ → カラコルム峠

⑤ In the Ice World of Himalaya (Workman)

1899年

- ② ワークマン夫妻 リールブリッゲン (スイスのガイド)
- ③ デオサイ高原 → スカルド → スコロラ (5073m) →  
グラルドー谷 → ビアフォ氷河を旅行。  
Koser Gunge (6400m) 登頂。

1902年

- ② ワークマン夫妻 リールブリッゲン, エストライヒ博士 (北)
- ③ アランドウ → チョゴレンマ氷河へ。

- ② Oエッケンシュタイン A.E. クローリー, G. ノールズ (1英)
- ③ K2の登路の探査及び試登 H. フォアルン (オーストリア)
- ④ 6500mまで (北東山稜) V. ウェッセリ ( )  
J. ジャコギアルモ (スイス人の)

1903年

- ② ワークマン夫妻 ジョセフ・ペティガ (ガイド)
- ③ チョゴ (6555m), ルンマ (6880m) 登頂  
ホーレンバ氷河 → マックラ (5273m)

- ② J. シレム (オランダ)
- ③ フーシェ渓谷探査

1908年

- ② ワークマン夫妻
- ③ キルギット → ヒスパー峠 ( ) → ビアフォ氷河 →  
アスコール
- ⑤ The Call of Snowy Hispar (Workman)

1909年

- ① イタリア隊 (12名)
- ② アルブツ干公 ( ), フイリッホ・デ・フイリッピ博士,  
ヴィクトリオ・セラ (写真家) F. ネグロット (地質学者)  
他7人のイタリアのガイド
- ③ K2 試登  
6月2日, アルブツ干稜を約6000mまでで敗退。  
チョゴリガ (ブライド・ピーク, 7654m) 試登  
7月18日 7500mで敗退。  
コンウェイ・サドル (6300m) の登行
- ⑤ ウィンディ・ギャップ ( ) の登行。
- ⑤ Karakorum and Western Himalaya (De Filippi)

1909年

- ② トム・ロングスタッフ (1865~) A・ネーヴ (写真家), D・オリバー, A・スリングスビー.
- ③ カーホル (シヨヨック川下流) → ビラフォンドラ (5500m)
  - ・テラム・カンリの発見命名
  - ・サルトロ峠越え
  - ・テュミワ氷河, ルギヨン氷河の探検. 作図.
  - ・シマチェン氷河探査
- ④ 「わが山の生涯」 トム・ロングスタッフ

1911年

- ② V.P.B. コリンズ, C.S. マキンス
- ③ テラム・カンリの測量

1911年~12年

- ② ワークマン夫妻, グランドピーターキン (測量家).
- ③ シマチェン氷河 → インディラ・コル, トルキスタン・ラ.
  - ・シマラ → コンドラス氷河
- ④ *Two Summers in the Ice-Wilds of Eastern Karakorum*

1913年~14年

- ① 学術調査隊
- ② ファリッポ・デ・フィリッピ (1869~1938), A・アレッシオ中佐,
  - G・アベッティ, G・ダイネリ, M・ジノリ, A・アンテリ,
  - G・ペティガ (ガイド), H・ウッド少佐, D・マリネリ, C・アレックス  
サンドリ, A・J・スプランガー.
- ③ リモ氷河探査. 作図.
  - ・ヤルカンド河源流探査

1914年~18年  
第一次世界大戦





1930年

- ②ジオットーダイネリ教授(地質) エレンカラウ(女性)
- ③シアチェン氷河→テラムシエール氷河→イタリア・コル(6100m)→リモ氷河探検 測量

1932年

- ①ドイツ・ナンガパルバット隊
- ②ウィリー・メルクル, P.アッシエンブレナー, E.シモン, フリッツ・ベヒルト, フゴ・ンバルガー, H.クニーク, フリッツ・ウイスマー, R.ヘロン, E.ノールトン(女性:記者)
- ③ナンガパルバット(8125m) 試登  
・8月27日, 6950mにC.設営まで  
・サウス・チョンラ・ピーク(6448m) 登頂  
・ラキオット・ピーク(7070m) 登頂
- ④8月18日 アッシエンブレナー, クニークによるラキオット・ピークの登頂

1934年

- ①ドイツ・ナンガパルバット隊
- ②W.メルクル, P.アッシエンブレナー, F.ベヒルト, U.ウィーランド, E.シュナイター, W.ウェルツェンバウム, P.ミューリッダー, W.バルナド, A.ドレゼル, H.ヒロ=4人
- ③ナンガパルバット 試登
- ④7月6日 P.アッシエンブレナー, E.シュナイターは7700mまで
- ⑤Deutsche am Nanga Parbat (F. Bechtold)
- ⑥メルクル, ウェルツェンバウム, ウィーランド, 凍死.  
ドレゼル 肺炎死, シェルパ = マヌルブ, ニマ・タシ,  
ニマ・ドルジエII, ピンツォマル, ガイライ, ダクシ) 6名  
凍死. 結局10名の犠牲者をして敗退.

① 国際遠征隊

- ② G.D.ディレンブルト教授夫妻(イス) マンドレロック(ス)  
マルセル・クルツ(ス) ウィンラー(ス) ハンス・エルトル(独)  
アルベルト・ヘヒト(独) ピエリ・ガリオーネ(伊) ジミー・ベライ  
エフ(英)
- ③ ガッシャーブルムI峰(ヒド・ピーク 8068m) 試登  
南稜を6200mまで  
バルトロカンリ東峰(726m) 登頂  
8月3日, ロック, ベライフ, ガリオーネ, ウィンラー ④  
による.

シブ・カンリ(7422m)の四峰登頂。

1935年

- ② フィッサー夫妻 ウィス博士。
- ③ シャクスガム川 → キアガール氷河探査。

① 英国隊

- ② ジェームス・ウォラー、ジョン・ハント、R・ブラザー・フット、  
J.S.カーズロー博士。
- ③ サルトロ・カンリ 試登。
- ④ 6月20日、頂上直下180mまで。

① ドイツ・ヘンズーワシュ遠征隊

- ② アルバート・ヘルリッヒ他。
- ③ ティチミール(7700m) 試登。
- ④ 南方より約6000mまで。

① R.J.ラウダー、D.N.B.ハント。

- ③ イストル・オナール(7398m) 試登。
- ④ 頂上直下60mまで。

1936年

① フランス遠征隊

- ② ドゥセゴーニユ、P.アラン、J.シャリニオン、J.レナンジエ、  
J.カルル、L.ヌルトナー、J.テュトン、マルセル・イシャック。
- ③ ガンシャール I 峰 試登。
- ④ 6月22日、7069mのCampまで。

1937年

① ドイツ・ナンガールバット隊

- ② カール・グイーン、A.ゲットナー、G.ハップ、P.ミュリッター、  
ハンス・ハルトマン、ウーリッヒ・ヒルフト、P.フランクハウザー、  
M.プロフェッサー。
- ③ ナンガールバット 試登。
- ④ 6184mのCⅣまで。
- ⑤ グイーン、ハルトマン、ハップ、ゲットナー、ミュリッター、  
フランクハウザー、プロフェッサー、シエル10名。  
6月14日夜、ナダレのために死す。

⑨

1937年

- ② エリック・シフトン、H. テイルマン、M. スペンダー、J. B. オートン
- ③ ..... カルホラゴ氷河
- ④ K2北面の氷河探査、作図
- ⑤ Blank on the Map (Shipton)

1938年

- ① ドイツ・ナンガバルバット隊
- ② ハウルバウマー、F. ベヒルト、U. ルフト、H. レビッチュ、  
ハンス・ホルツ、L. シュマテラー、ブルノー・バルケ、  
R. V. クリッゲンスベルグ、S. ツック
- ③ ナンガバルバット試登
- ④ 7月23日、7300mまで
- ⑤ Das Ringen um den Nanga Parbat (Paul Bauer)

① イギリス隊

- ② G. ウォーラー、T. グレアム・ブラウン、J. O. M. ロバーツ、  
J. B. ハリソン、R. A. ホジキン
- ③ マッシュアブルム (7821m) 試登 南面より
- ④ 6月17日、7620mまで

② キャンベルセコード、マイケル・ガイ・アン

- ③ ラカポシ (7788m) 試登
- ④ 7月19日、北西稜より 6858mまで

① アメリカ隊

- ② チャールズ・ハウストン、R. H. ベイツ、R. バードリル、  
W. P. ハウス、P. アッツォルト、T. R. ストレートフィールド大尉
- ③ K2 試登
- ④ 7月21日、7925mまで
- ⑤ Five Miles High (R. H. ベイツ)

1939年

- ② スミートン夫妻、ミラー、R. オーギル
- ③ テイチミール試登
- ④ 南氷河峰 6700mまで

② エリック・シフトン

- ③ アギール山脈、新ムスターグ~~山~~試登
- ⑤ "Upon that Mountain" E. シフトン

1939年

- ① ドイツ隊
- ② ペーター・アウシュナイダー、ハインリッヒ・ハーラー、L.ケチン、H.ローベンホッフアー
- ③ ナンガパルバットのテミアミライ壁偵察

- ① アメリカ隊
- ② フリッツ・グイスナー、C.克蘭マー、D.ウルフ、E.クロムウエル、G.シェルドン、J.デュランス
- ③ K2試登
- ④ 7月19日、8385mまで
- ⑤ D.ウルフ、シェルハ<sup>0</sup> (ハサン・キクリ、ピンリオ、キタール)、3名 遭難。

1939年～45年  
第2次世界大戦

1945年

- ② R.ションバーグ
- ③ シムシャールパス → シャクニガム渓谷へ。

1946年

- ② J.D.M.ロバーツ、G.ロリマー、チャールス・ワイリー
- ③ サセルカンリ (7671m) 試登
- ④ サセルカンリIV (7415m) (ラウド・ピーク) 試登

1947年

インドとパキスタンは分立、独立した。

- ② H.W.ティルマン、キャンベル・ニコード、ハンス・ギル (スイス)、ロバート・カペラー (ス)。
- ③ ラカホシ試登
- ④ 7月3日 南西稜より5700m位まで
- ⑤ バリール山群  
ワワアイ水河探査。

- ② H.W.ティルマン
- ③ ワハン渓谷  
ワルフジパス → ワハン渓谷

1944年

探検に対してネパールは閉鎖した。

- ① ノルウェー隊
- ② アルネ・ネース、ランダース・ハーン、ストレムサー 大尉(英)
- ③ ティチ・ミール 偵察
- ④ S氷河を6400mまで

1950年

- ① ノルウェー隊
- ② A.ネース、ハンリー・ベルグ、ハンス・ブーゲ、ヤルワ・ベルンベルグ、F.ロレンツェン、H.ストレムサー 大尉(英)
- ③ ティリチ・ミール (7705m) 登頂
- ④ 7月21日、クハルンベルグ 初登  
22日 ナエス、ベルグ、ストレムサー、オス登

- ② ショー夫妻 (アメリカ)
- ③ ワハン深谷旅行  
イシヨカム → テリーサン峠 → ミスガール → フンサ

- ② J.W.ソーンリイ、W.H.クレーズ、R.H.Marsh
- ③ ナンガバルバットのラモット氷河へ、谷間の雪の状態で雪崩の調査
- ⑥ ソーンリイ、クレーズ 遭難

1950 ~ 1年

- ② J.クラーク (英)
- ③ フンサ深谷
- ⑤ Hunza, Lost Kingdom of the Himalaya

1953年

- ① アメリカ隊
- ② チャールズ・ハウストン、R.バイツ、G.ベル、A.ギルギー、D.モルナール、P.ショーモンク、D.モルナー、R.クレイグ、H.ストリーサー
- ③ K2 試登
- ④ 7740mのCまで、8月7日敗退
- ⑥ アート・ギルギー 静脈炎で死亡
- ⑤ 「K2 - 非情の山」 C.ハウストン

1953年

- ① イタリア隊
- ② アルティオ・デジオ、リカルド・カシン
- ③ K2 偵察

① ドイツ・オーストリア隊

- ② K・M・ヘルリッヒコッフアー博士、ワルター・フラウエハベルガー、P・アッシェンブレンナー、ヘルマン・ブール、クーノー・ライナー、ハンス・エルテル、A・ビッターリング、C・ケンプター、H・ケレンスヤルガー
- ③ ナンガ・パルバット (8125m) 登頂
- ④ 7月3日、H・ブールによる単独初登
- ⑤ 「ハチ米の上と下」 H・ブール

1954年

① イタリア隊

- ② A・デジオ、R・ラチエテリ、A・コンパニョーニ、M・アッシュョーズ、E・アブラム、U・マンジエリ、W・ボナツィ、C・フロリアニ、G・ソルダ、P・ガロツァイ、レイ、S・グイオットー、マリオ・ブアンティン (カメラマン)
- ③ K2 (8511m) 登頂
- ④ 7月21日、コンパニョーニ、ラチエテリにより登頂
- ⑤ 「K2 征服」 A・デジオ
- ⑥ M・アッシュョーズ肺炎で死亡

① ドイツ・オーストリア隊

- ② K・M・ヘルリッヒコッフアー、K・ライナー、G・ハウザー、M・アンテレル、A・ビッターリング、J・フィシャー、W・キック、G・克蘭メット、H・ケレンスヤルガー、S・マーク、R・マリック、T・メスナー、エルンスト・ゼン
- ③ ブロード・ピーク 試登
- ④ 11月6日、ライナー、ハウザーは7200mまで

① ケンブリッジ大学隊 (6名)

- ② A・テイシェール、ジョージ・バント、T・ラングら4名他
- ③ ラカポシ 試登
- ④ 8月12日 6400mまで
- ⑤ 「Roard to Rakaposhi」 G Band

⑬

1954年

- ① ドイツ・オーストリア隊 (総合科学班) (13名)
- ② M.レビュチユ
- ③ ラカホシ 試登  
・ バツラ 深谷のククアイ氷河、バルタール氷河探査  
・ 8月5日、バツラ山群の無名峰(7300m)に登頂
- ④ K.ハックラー、フンザ河が涸死

1955年

- ① 京大カラコルムヒンズークミユ 学術調査隊
- ② 今西錦司、松下進、原田道彦、中尾佐助、藤田和夫、林田重男(カクラマン)
- ③ ヒスパー氷河、ピアフォ氷河、バルトロ氷河探査
- ④ 「カラコルム」 今西錦司  
「砂漠と氷河の探検」 木原均編

- ① ニュージーランド隊 (7名)
- ② S.コンウエー
- ③ マッシュャーブルム (7821m) 試登
- ④ 6月18日、7080mまで

- ① ハーバート大学隊 (4名)
- ② F.ダン
- ③ フェシェ深谷、コンダス深谷探査

- ① フランクフルト隊 (10名)
- ② R.フンダー、K.クレーナ、R.ティーパーン他
- ③ スパントム7 (7029m) 登頂
- ④ 7月5日、R.ティーパーン、ラインリルト、ティーパーン

- ① プリンストン隊
- ② J. E. マーフィ、トーマス、A. マンチ、10キスタン人1名
- ③ イストルホナール (7399m) 登頂
- ④ 6月8日

1956年

① オーストリア隊

② フリッツ・モラベック, S.ラルヒ, H.ラティ, R.ライナグル  
H.ロイス, H.ウィレンハルト, G.ワイラー, E.T.ガッテシガー

③ ガッシャーアル4峰(8035m) 登頂

7月7日, モラベック, ラルヒ, ウィレンハルトによる。  
シアカンリ西峰(7355m) のオ2登  
ラタイ, ロイス, ワイラーによる。

① イギリス隊

② J.M.ハルトグ, I.M.デービス, J.ブラウン, T.パーティ

③ 4スタグタワー(7273m) 登頂

④ 7月6日, ブラウン, デービス オ1登 } 北西稜より  
7日, ハルトグ, パーティ オ2登

① フランス隊

② ギド・マニョーヌ, A.コンタミヌ, P.ケラー, R.ピランゴ,  
F.フローレンス

③ 4スタグタワー(7273m) 登頂

④ 7月12日, マニョーヌ, コンタミヌ, ケラー, ピランゴの  
4名は南稜より登頂

① アメリカイギリス合同隊

② マイクバンクス, ハーミッシュ, ボブ・ウィフト, ティック,  
アーヴィン

③ ラカポシ(7788m) 試登

④ 7月11日, 7170mで敗退

① 京大・ハンジャポ大合同隊

② 藤田和夫, 本多勝一, 吉場健二, A.H.イグ"他3名

③ フリオンサール 試登

・イシュコマン川, ヤシン川流域踏査  
・カランバール氷河偵察



1957年

- ①インペリアル・カレッジ隊(6名)
- ②エリック・シフトン、ミラー、ブラッド、他
- ③ピラフォンドラ → シアチェン氷河 → ロロフォンダ氷河  
Kは試登

①オーストリア隊

- ②マルクス・シュムツ、ヘルマン・グー、クルト・ティーム、ベルガー、フリッツ・ウインター・シュテラー
- ③「グロード・ピーク」(8047m) 登頂
- ④6月9日、全員登頂
- ⑤スケルブルム(7360m) 登頂
- ④6月19日、シュムツ、ウインター・シュテラーに53
- ③「フォゴリサ」試登(7654m)
- ④6月27日、H.グー、ティーム、ベルガーは6700mまで
- ⑥H.グー、フォゴリサで墜死
- ⑤「グロード・ピーク」 M.シュムツ

①イギリス隊

- ②J.ウォルムズリー、E.W.ダン、R.ダウンス、G.スミイ、R.サイクス、D.ウイランス
- ③マッシュャーブルム試登
- ④8月16日、ウォルムズリー、ウイランスは7711mまで
- ⑥ダウンス 病死

①イギリス・イタリア合同隊

- ②A.グレゴリー、他4名、P.ギオーネ
- ③「テイスタギル・サール」(7880m) 試登
- ④6700mまで

①オックスフォード大学隊

- ②H.ストレーガー
- ③ハラモシュ(7397m) 試登
- ④6400mまで
- ⑥ドロット、カルバートの2名も

1957年

- ① 京大ハンジャア大会同隊
- ② 松下進、本多勝一、萩野和彦、岩坪五郎、沖津文雄、他3名
- ③ スワート川、ヤミン川、マスツヅ川踏査  
- シェハーンドフ(6320m) 試登  
直下100mで敗退

1958年

- ① アメリカ隊
- ② N.ワリンチ、A.カウフマン、D.ショーニング、他
- ③ ガッシャーブルムI峰(ヒドンセーフ 8068m) 登頂
- ④ 7月4日、カウフマン、ショーニングによる

① イタリア隊

- ② リカルドカシン、ウルテルボナッティ、ジウゼッペ・フランチェスコ  
トニゴッピ、フォスコマライーニ、カルロマウリ、  
ジウゼッペ・オルベルト、ドナート・セーニ

③ ガッシャーブルムII峰(7980m) 登頂

8月5日、ボナッティ、マウリによる

ガッシャーブルムIII峰(7952m) 試登

8月5日、7350mまでリカルドカシン 単独

ガッシャーブルムIV峰(6600m) 登頂

8月6日、オベルト、マライーニによる

「6748m・コル」探査

8月5日、オベルト、マライーニによる

⑥ 「TGⅣ」 マライーニ

① 京大 学士山岳会

② 桑原武夫、加藤泰安、藤平正夫、山口克、脇坂誠、中島道郎

平井一正、高村泰雄、岩坪五郎、芳賀孝郎、今川好則

潮田三代治(カメラマン)

③ チョゴリガ(7644m) 登頂

④ 8月4日、藤平、平井による

カベリー・ピーク(6950m) 登頂

8月5日、山口、中島、高村による

コンダス・ピーク(6758m) 登頂

8月3日、加藤、今川、高村による

ビアンジェ氷河 → ステステサドル } 平井、芳賀

7170m 峰試登、7000m まで

1958年

- ① オーストリア隊
- ② H. ロイス, パウアー, マンドル
- ③ ハラモシュ (7397m) 登頂
- ④ 8月4日, ロイス, パウアー, マンドルによる

- ② M. バンクス, リチャード・ブルーワ, ジミー・ミルズ,  
トム・パーティ, ワールウィック・テイ・コック, ジョン・シムズ,  
デイビー・グラント, ラジャー・マスラム (パキスタン)  
シパー・カン (パ) サイブ・シャー (測量官)

- ① イギリス・パキスタン合同隊
- ③ ラカホシ (7788m) 登頂
- ④ 6月25日, バンクス, パーティによる

- ① オックスフォード山岳会 (5名)
- ② E.W. リリッシュ, P.S. ネルソン, F.S. フラムトン, 他
- ③ サラグラール (7349m) 試登
- ④ 8月27日, 6600mまで
- ⑤ ネルソン 滑落死

1959年

- ① スイス隊
- ② R. ランベール, 他
- ③ デイスタギルサール 試登

- ① イタリア隊 (13名)
- ② G. モンテリ, C. ペリシエ, 他
- ③ カンジュー・ト・サール (7760m) 登頂
- ④ 7月19日, C. ペリシエ 単独で

- ① イギリス・パキスタン合同隊 (15名)
- ② H. ストレージャー, A. イムリー, J. アクター, 他
- ③ - トラルンマ氷河  
・ マルチヨリ氷河  
・ 5000m 峰を5つ登頂  
・ ガンチェン峰 (6462m) 試登  
・ マルビティン (7453m) 試登  
・ マルビティン 東峰 (6470m) 登頂  
8月2日, A. イムリー, J. アクター

1959年

- ① イギリス・ドイツ隊
- ② K. ウォーバートン、J. エドワーズ 他4名
- ③ バツラ主峰試登
- ④ エドワーズを残り他の5人は不帰。

- ① ドイツ隊(8名)
- ② H. ジュナイダー R. バルトナー
- ③ ミナピン(7273m) 試登  
約7000mまで R. バルトナー  
、ワクアイ氷河、バルター氷河、サトマル氷河、  
カランバル氷河(カンピレテイオール西南)  
、ポコラ → ナルタル谷

- ① イタリア隊(8人)
- ② F. マライーニ、フランコアレト、パオロコンシリオ、レス  
カステリ、ピネリ
- ③ サラグラール(7349m) 登頂
- ④ 8月24日、カステリ、ピネリ、アレト、コンシリオの4名  
登頂

- ① ニーホルンベルグ・センズークシュ遠征隊
- ②
- ③ メルガミール(6059m) 登頂

1960年

- ② ステファンソン(オーストリア) ミラー(英) ハーレー(米)  
ハフナー(英)
- ③ K2 試登
- ④ ロホモルンマ氷河より北西尾根のコルへ出て7000mまで

- ② <sup>M</sup>アンデル(独) ローゼンタール(英) ゼン(オーストリア)
- ③ テツパツク峰(7150m) 登頂  
8月13日、アンデル、ゼンによる  
、シルバースローン(6900m) 登頂

- ① イギリス・ドイツ隊
- ② ハニケット小佐
- ③ K2 7260mまで

④

1960年

- ①アメリカ・パキスタン合同隊
- ②G. ベル, W. ワリンチ, ウィリアム, アンソルト, J. アクター (11)
- ③マッシャーゲルム (7821 m) 登頂
- ④ 7月6日, ウィリアム, アンソルト, ベル,  
7月8日, クリンチ, J. アクター

①イギリス隊

- ②ウィルフリッド・ノイス, ドン・ウイランス, ジョック・サドラー,  
ジョフ・スミス, コリン・モートロウ, オレグ・ポルニ  
サンテ・イキャイナハ
- ③トリヴ・オール (7720 m) 登頂
- ④8月17日, ノイス, サドラーによる

①オーストリア隊 (5名)

- ②W. ステファン, ステルカー, マルハート, 他
- ③テイスター・ギルサル (7885 m) 登頂
- ④6月9日, シュテルカー, マルハートによる

①京大学士山岳会

- ②酒井弥二郎, 吉井良三, 沢田秀雄, 広瀬幸治, 酒井敏明,  
岩坪五郎
- ③ノシャツク (7490 m) 登頂
- ④8月17日, 酒井, 岩坪による

①ポーランド隊 (12名)

- ②シュワシンスキー, 他
- ③ノシャツク (7490 m) の矛2登  
8月27日, Berbek 他6名による
- マスロ・サフエド (6350 m) 登頂

1961年

- ①オーストリア隊 (4名)
- ②F. ショック, マフスト
- ③ゲント (7401 m) 登頂
- ④6月4日 マフストによる

①イギリス空軍隊 (11名)

- ②シムス, スマイル
- ③K6 (バルチスタン・ピーク 77280 m) 試登  
タンマ, テゴリガ 両氷河より偵察  
6000 m 峰を4つ登頂

1961年

② 高村泰雄

③ コンダス谷 → 下部リカ氷河 → リカ・コル (5500 m)  
→ コルコンダス → ドンドン氷河

① アメリカ隊

② クナウス 他

③ ハイジユ (66755 m) 試登

① ラホール登山クラブ (パキスタン)

②

③ クンヤン・キッシュ (7852 m) 試登

① ケンブリッジ大学学術調査隊 (8名)

②

③ ミナヒン氷河周辺

② 島澄夫, 竹内正巳

③ ダインタール氷河, バルタール氷河 (バルツラ湖の西面)  
サトマール (6293 m) 登頂 9月28日

② ミルス, ワーセン, パキスタン人4名

③ スワート渓谷, バティン山群,  
スミ川源流

① ドイツ・オーストリア隊 (10名)

② K.M. ヘルリッヒ, コッフアー, キンショフアー, レーウ,  
レーネ, ロスト, アンデル, 他

③ ナンガパルバット (8125 m)

ナミアミール壁からの試登, 7150 m, 6月19日に敗退

1962年

① 京大 山岳会

② 田出井綱彦, 加藤泰安, 林一芳, 斎藤惇生, 平井一正, 谷泰,  
岩坪五郎, 高村泰雄, 前小屋端, 上尾庄一郎

パキスタン側 A.H. イグ, ラジャ・バシール・カーン 他2名

③ サルトロ・カンリ (7742 m) 登頂

④ 7月24日, 斎藤, 高村, ラジャ・バシール・カーンによる

②

1962年

- ① イギリス・10キスタン隊
- ② ミルス
- ③ グンヤンキ... ミュ試登
- ④ 英口人隊員 - 各遭難

② A. ゲイ E. ヴァレンティン

③ ブ=ズム山群 探査

① ドイツ・オーストリア隊

② K. M. ヘルリッヒ コッファー マンハルト キンショフアー  
レーウ、レーネ、アンテレル、シュツルム

③ ナンガバルバットのカ2登

④ 6月22日、キンショフアー、レーウ、マンハルトによる  
ドイツミール壁よりの登頂

⑥ レーウ遭難死

1963年

① 東大隊

② 加藤誠平、渡辺兵力、島澄夫、南章司、柴田武夫、藤本慶光  
岡田清己、河野長、柳沢素夫、森田尚幸、武内貞頼(記者)  
野口篤太郎(カメラマン)

③ バルトロ・カンリ(7312m) 登頂

④ 8月4日、柴田、河野、島、藤本による

⑤ 「カラコルムへの道」 加藤誠平







編者略歴

昭和17年8月13日愛知県名古屋に生る。  
昭和37年4月 信州大学文理学部人文科入学  
昭和4X年3月 同 卒業  
昭和4X年6月 Miss と結婚

現職 信州大学山岳部3年次生  
現住所 松本市元町上区275の3 藤原芳

編者との了解による  
検印者略歴しか  
ず

カラコルダ・ヒンドウ・クモ遠征史

¥ No.11

昭和39年10月17日 印刷  
昭和39年10月18日 発行

編者 MASARU OGAWA  
発行所 松尾次郎三郎武久  
印刷所 文理学部学生会室  
発行所 K.K.信州大学印刷松本山岳部

著丁乱丁本はお買ひ求めの書店または本社にてお取寄せいた  
します。

© Printed in Japan